

海外現地法人の動向（要旨）

海外現地法人四半期調査（平成 19 年 7-9 月期）

平成 19 年 12 月 26 日
調査統計部企業統計室

～ H19/7-9 の実績、H19/10-12 の現状判断 DI、H20/1-3 の先行き DI ～
<今回調査のポイント>

売 上 高

○先行きDI(H20 年 1-3 月期)はプラス幅を縮小するも、2桁台を維持

現状判断DI(H19 年 10-12 月期)は、プラス幅を縮小。先行きDIは、アジア地域及び欧州のプラス幅縮小によりプラス幅を縮小したが、すべての地域でプラスを維持。

○実績(H19 年 7-9 月期)は前年同期比 10.4%増と、2期連続2桁台の増加

業種別では、輸送機械及び化学は、2桁台の増加を維持し、電気機械は、伸び率を拡大した。一般機械は、1桁台に伸び率を鈍化し、鉄鋼は、減少に転じた。

地域別では、欧州は、一般機械、輸送機械及び化学が大幅な増加を維持し、4期連続2桁台の増加。アジア地域は、輸送機械の大幅な増加などから3期連続2桁台の増加。北米は、9期連続1桁台の増加。

設 備 投 資

○先行きDI(H20 年 1-3 月期)はプラス幅を縮小するも、すべての地域でプラスを維持

現状判断DI(19 年 10-12 月期)は、プラス幅を縮小。先行きDIは、アジア地域及び欧州のプラス幅縮小によりプラス幅を縮小したが、すべての地域でプラスを維持。

○実績(H19 年 7-9 月期)は前年同期比▲5.2%減と、2期連続の減少

業種別では、化学は、2期連続大幅に減少。輸送機械は、欧州及びアジア地域の大幅な減少から2期連続2桁台の減少。鉄鋼及び電気機械は、大幅な増加に転じ、一般機械は、4期連続2桁台の増加。

地域別では、欧州は、化学の大幅な減少などから2期連続2桁台の減少。アジア地域は、NIEs3、ASEAN4、中国とも輸送機械を中心に減少し、2期連続減少。北米は、伸び率は鈍化するも、3期連続増加。

従 業 者 数

○先行きDI(H20 年 1-3 月期)はプラス幅をわずかに拡大

現状判断DI(19 年 10-12 月期)は、プラス幅をやや縮小。先行きDIは、プラス幅をわずかに拡大。欧州を除く地域でプラスを維持し、中国は、2桁台を維持。

○実績(H19 年 7-9 月期)は前年同期比 3.6%増と、引き続き増加

業種別では輸送機械を中心として、地域別では中国を中心として、引き続き増加。

調査時点：平成 19 年 11 月中旬

1. 売上高

先行きDI*1 は 14.0%ポイントと、プラス幅を縮小するも2桁台を維持。実績は前年同期比 10.4%増と2期連続2桁台の増加。

- **現状判断D I (H19 年 10-12 月)**は、16.3%ポイントと、前期現状判断D I (H19 年 7-9 月)に比べ▲5.3%ポイントプラス幅を縮小。アジア地域は、ASEAN4*2、NIEs3*3、中国*4ともプラス幅を縮小。欧州は、輸送機械がプラスに転じ、電気機械がプラス幅を拡大したことなどにより、プラスに転じた。北米は、輸送機械はプラス幅を拡大したが、その他の主要業種でプラス幅を縮小し、プラス幅縮小。

先行きD I (H20 年 1-3 月)は、14.0%ポイントと、今期現状判断D Iに比べ▲2.3%ポイントプラス幅を縮小。北米は、一般機械及び化学が大幅にプラス幅を拡大し、プラス幅拡大。アジア地域は、一般機械及び電気機械がプラス幅を縮小し、プラス幅縮小。中国及び NIEs3で大幅にプラス幅を縮小。欧州は、化学はプラスに転じたが、一般機械及び輸送機械はプラス幅を縮小し、電気機械はマイナスに転じたため、プラス幅縮小。すべての地域でプラスを維持。

- **実績(H19 年 7-9 月)**は、前年同期比 10.4%増と、2期連続2桁台の増加。

業種別では、輸送機械は、4期連続2桁台の増加。アジア地域及び欧州は大幅な増加を維持し、北米は小幅ながら増加を維持。化学は、3期連続2桁台の増加。一般機械は、7期ぶりに1桁台の伸び率に鈍化。電気機械は、1桁台ながらも伸び率を拡大したが、鉄鋼は減少に転じた。

地域別では、欧州及びアジア地域は、伸び率をやや鈍化させたものの2桁台の増加を続けたが、北米は、引き続き低い伸び率。**欧州**(前年同期比 18.2%増)は、4期連続2桁台の増加。一般機械、輸送機械及び化学は、伸び率は鈍化ながら引き続き大幅に増加し、電気機械は増加に転じた。**アジア地域**(同 13.9%増)は、すべての業種及びすべての地域で増加し、3期連続2桁台の増加。**中国**(同 18.9%増)は、2桁台の増加を維持。輸送機械及び化学は引き続き大幅に増加し、電気機械は7期ぶりに2桁台の増加。**ASEAN4**(同 10.8%増)は、3期連続2桁台の増加。一般機械及び輸送機械は5期連続2桁台の増加となり、鉄鋼も2桁台の増加を維持。**NIEs3**(同 4.6%増)は、3期連続増加し、小幅ながら伸び率を拡大。輸送機械が台湾の回復から7期ぶりに増加。**北米**(同 2.2%増)は、5期ぶりに伸び率をやや拡大するも、9期連続1桁台の増加。輸送機械は引き続き低い伸び率にとどまり、電気機械は横ばい。一般機械は建設機械の不振などから3期連続の減少。

注 *1：調査時点を含む四半期（現状判断）及びその翌四半期（先行き）に関し、それぞれ前四半期と比較した見通し

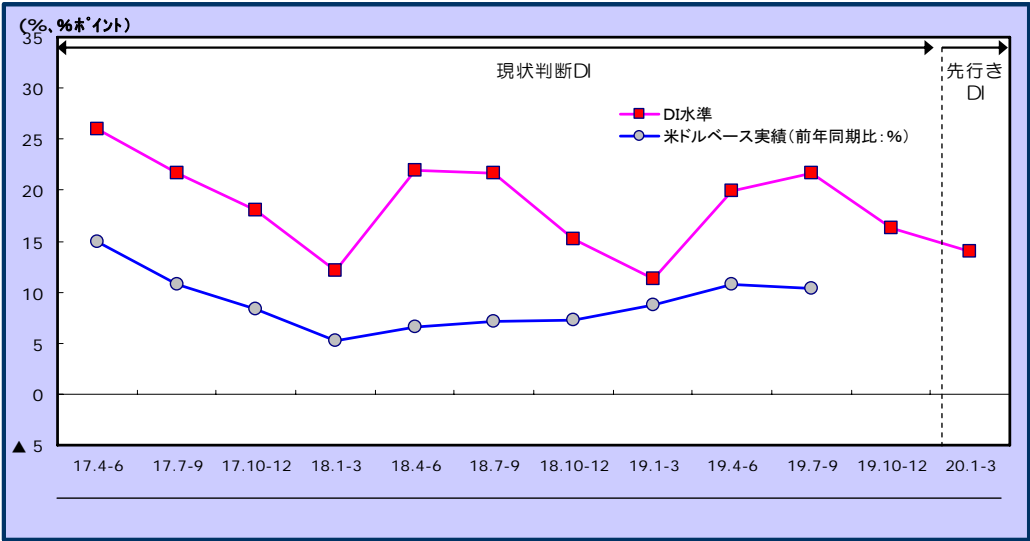
・DI＝「増加と回答した企業の割合」－「減少と回答した企業の割合」

*2～4 ASEAN4：インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア NIEs3：シンガポール、台湾、大韓民国 中国：香港を含む

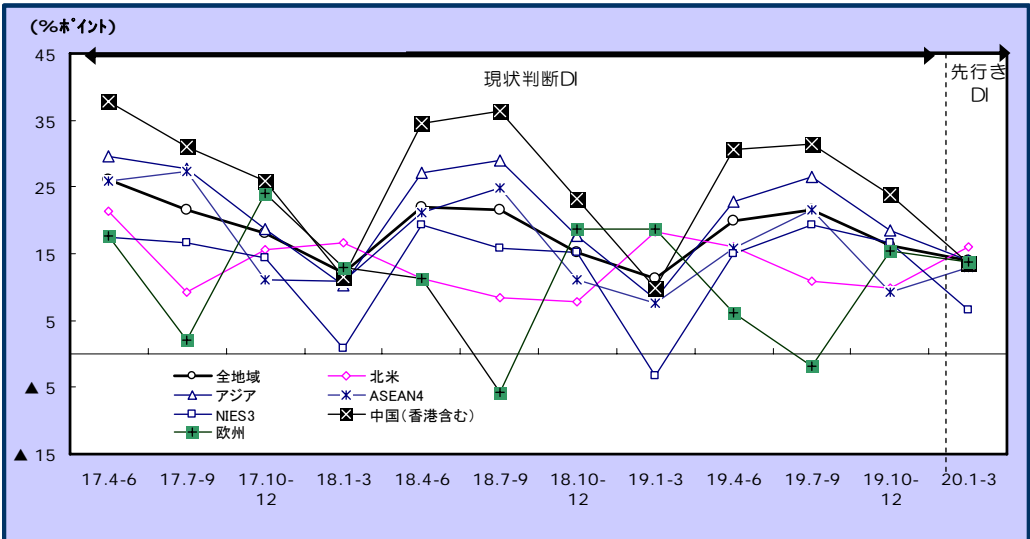
1表 売上高のD I 及び実績（地域・主要業種別）

	DI					実績	
	前期調査			前期比		前期	今期
	①現状判断 (19.7-9)	②現状判断 (19.10-12)	③先行き (20.1-3)	現状判断 (②-①)	先行き (③-②)		
計（地域・業種）	21.6	→ 16.3	→ 14.0	(▲ 5.3)	▲ 2.3	10.7	10.4
北米	10.9	→ 9.9	→ 16.0	(▲ 1.0)	6.1	0.1	2.2
アジア	26.5	→ 18.5	→ 14.0	(▲ 8.0)	▲ 4.5	15.2	13.9
ASEAN4	21.5	→ 9.3	→ 12.9	(▲ 12.2)	3.6	14.4	10.8
NIEs3	19.3	→ 16.6	→ 6.6	(▲ 2.7)	▲ 10.0	2.5	4.6
中国（香港含む）	31.5	→ 23.8	→ 13.5	(▲ 7.7)	▲ 10.3	19.5	18.9
欧州	▲ 1.8	→ 15.4	→ 13.8	(▲ 17.2)	▲ 1.6	19.1	18.2
輸送機械	14.3	→ 20.8	→ 24.5	(▲ 6.5)	3.7	14.0	13.1
電気機械	18.1	→ 12.8	→ 4.3	(▲ 5.3)	▲ 8.5	0.6	4.7
一般機械	26.1	→ 23.4	→ 13.2	(▲ 2.7)	▲ 10.2	10.6	5.6
化学	32.1	→ 17.2	→ 24.6	(▲ 14.9)	7.4	12.3	10.3
鉄鋼	28.4	→ 11.0	→ 20.0	(▲ 17.4)	9.0	4.9	▲ 1.5

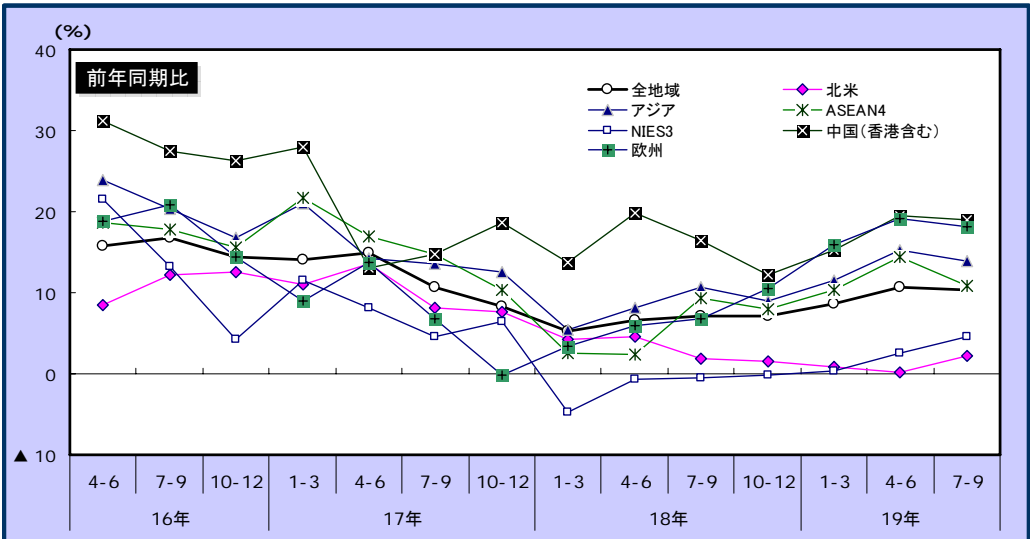
1 図 売上高の DI と実績（ドルベース）の推移



2 図 売上高D I の推移（地域別）



3 図 売上高実績（ドルベース）の推移（地域別）



2. 設備投資額(土地を除く有形固定資産取得額)

先行きDIは 11.8%ポイントと、プラス幅を縮小するもすべての地域でプラスを維持。実績は前年同期比▲5.2%減と2期連続減少。

- **現状判断D I (H19年10-12月)** は、15.1%ポイントと2桁台のプラスを維持。前期現状判断D I (19年7-9月) に比べると3.0%ポイントプラス幅縮小。輸送機械はプラス幅を拡大したが、その他の主要業種はプラス幅を縮小。アジア地域は、ASEAN4、NIEs3、中国ともプラス幅を縮小。欧州は、電気機械がマイナスに転じ、一般機械がプラス幅を縮小したことなどから、プラス幅を縮小。北米は、電気機械がマイナスに転じたことなどから、プラス幅を縮小。すべての地域でプラスを維持。

先行きD I (H20年1-3月) は、11.8%ポイントと、今期現状判断D I に比べ▲3.3%ポイントプラス幅を縮小したものの、2桁台を維持。アジア地域は、電気機械のプラス幅縮小などから、プラス幅を縮小。北米は、輸送機械はプラス幅縮小も、電気機械がプラスに転じ、化学が大幅にプラス幅を拡大し、プラス幅をわずかに拡大。欧州は、輸送機械のプラス幅縮小及び電気機械のマイナス幅拡大などにより、1桁台にプラス幅を縮小。すべての地域でプラスを維持。

- **実績(H19年7-9月)** は、前年同期比▲5.2%減と、減少幅は縮小したものの、2期連続の減少。

業種別では、化学は、欧州、アジア地域、北米とも大幅に減少し、2期連続大幅な減少。輸送機械は、北米は1桁台の増加を続けたものの、欧州及びアジア地域の大幅な減少から2期連続2桁台の減少。鉄鋼及び電気機械は、大幅な増加に転じ、一般機械は、4期連続2桁台の増加。

地域別では、欧州及びアジア地域は、減少幅は縮小したものの、2期連続の減少。北米は、伸び率は鈍化ながら、3期連続増加。欧州(前年同期比▲12.8%減)は、2期連続2桁台の減少。化学は4期連続大幅に減少し、輸送機械は5期ぶりに大幅な減少。**アジア地域**(同▲6.9%減)は、電気機械及び鉄鋼は大幅な増加に転じたものの、輸送機械及び化学は2期連続大幅な減少。NIEs3(同▲28.1%減)は、2期連続大幅な減少。輸送機械は5期連続で大幅に減少し、化学及び一般機械も大幅な減少。電気機械は8期ぶりの減少。**ASEAN4**(同▲1.5%減)は、減少幅は大幅に縮小ながら、2期連続の減少。電気機械は大幅な増加に転じたが、輸送機械、鉄鋼及び化学は、減少幅は縮小ながらも引き続き減少。**中国**(同▲1.0%減)は、減少幅は縮小ながらも2期連続減少。輸送機械は2期連続大幅に減少したが、電気機械及び一般機械は増加に転じた。**北米**(同1.6%増)は、伸び率は鈍化したものの、3期連続増加。輸送機械及び電気機械が3期連続増加。

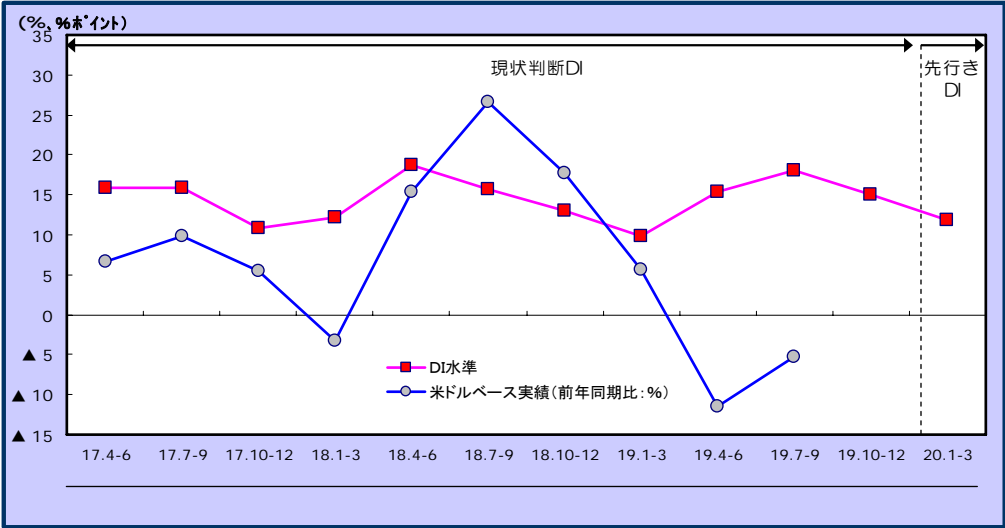
2表 設備投資額のD I 及び実績(地域・主要業種別)

(単位: DI及びDI前期比→%ポイント、実績(前年同期比)→%)

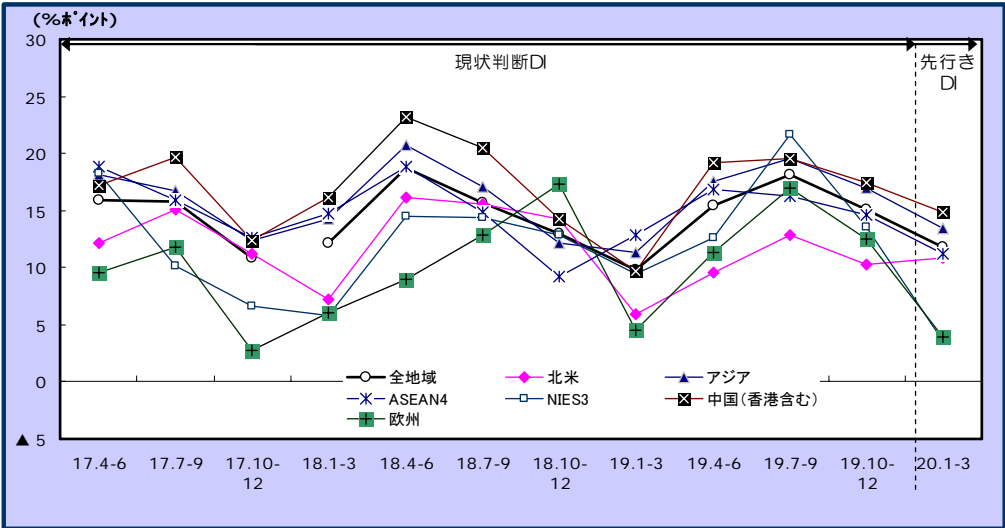
	DI					実績 (前年同期比)	
	前期調査		今 期 調 査		前期比		
	①現状判断 (19.7-9)	②現状判断 (19.10-12)	③先行き (20.1-3)	現状判断 (②-①)	先行き (③-②)	前期 (19.4-6)	今期 (19.7-9)
計 (地域・業種)	18.1 → 15.1 → 11.8	(▲3.0)	▲3.3	▲11.5	▲5.2		
北米	12.8 → 10.3 → 10.8	(▲2.5)	0.5	6.3	1.6		
アジア	19.5 → 17.0 → 13.4	(▲2.5)	▲3.6	▲16.0	▲6.9		
ASEAN4	16.3 → 14.6 → 11.2	(▲1.7)	▲3.4	▲24.4	▲1.5		
NIEs3	21.7 → 13.5 → 3.6	(▲8.2)	▲9.9	▲16.1	▲28.1		
中国 (香港含む)	19.5 → 17.4 → 14.9	(▲2.1)	▲2.5	▲16.7	▲1.0		
欧州	17.0 → 12.5 → 3.9	(▲4.5)	▲8.6	▲14.2	▲12.8		

	DI					実績 (前年同期比)	
	前期調査		今 期 調 査		前期比		
	①現状判断 (19.7-9)	②現状判断 (19.10-12)	③先行き (20.1-3)	現状判断 (②-①)	先行き (③-②)	前期 (19.4-6)	今期 (19.7-9)
輸送機械	21.5 → 22.4 → 15.0	(0.9)	▲7.4	▲10.1	▲10.9		
電気機械	17.6 → 12.2 → 2.0	(▲5.4)	▲10.2	▲15.5	▲16.6		
一般機械	10.4 → 6.9 → 8.9	(▲3.5)	2.0	13.4	19.6		
化学	15.0 → 9.7 → 20.0	(▲5.3)	10.3	▲44.6	▲34.2		
鉄鋼	22.8 → 21.4 → 19.7	(▲1.4)	▲1.7	▲21.7	19.9		

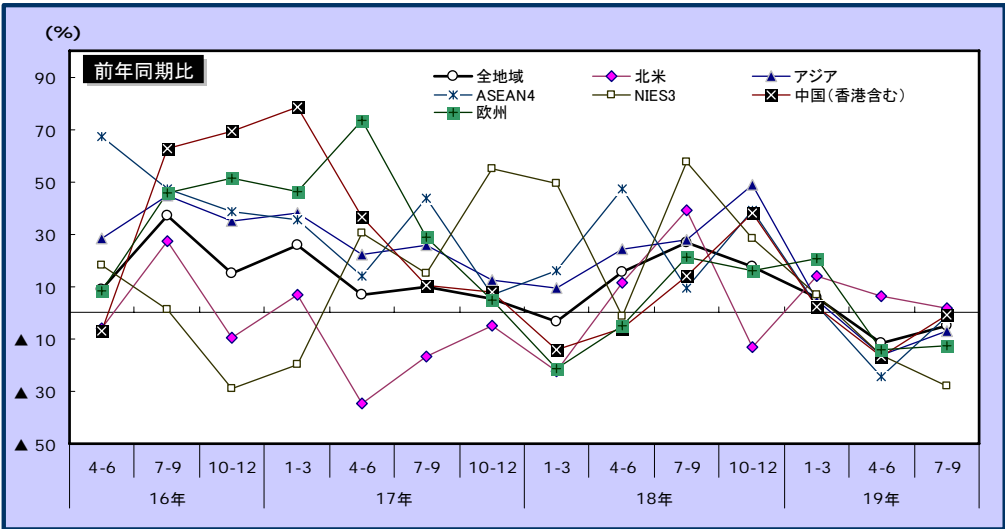
4 図 設備投資のD I と実績（ドルベース）の推移



5 図 設備投資D I の推移（地域別）



6 図 設備投資額実績（ドルベース）の推移（地域別）



3. 雇用(従業者数)

先行きDIは 8.9%ポイントと、プラス幅をわずかに拡大。実績は前年同期比 3.6%増と引き続き増加。

- **現状判断D I** (H19 年 10-12 月)は、8.3%ポイントと、前期現状判断D I (19 年 7-9 月)に比べ1.5%ポイントプラス幅を縮小。鉄鋼、一般機械及び輸送機械がプラス幅を縮小。欧州は、引き続きわずかながらマイナス。

先行きD I (H20 年 1-3 月)は、8.9%ポイントと、今期現状判断D I に比べ0.6%ポイントプラス幅を拡大。鉄鋼及び輸送機械はプラス幅を拡大。欧州を除く地域でプラスであり、中国は2桁台を維持。

- **実績** (H19 年 7-9 月)は、前年同期比 3.6%増と引き続き増加。

業種別では、輸送機械は、NIEs3 を除く地域で増加を続け、3 期連続 2 桁台の増加。電気機械は、3 期連続減少し、増加を続けた中国でほぼ横ばいとなった。

地域別では、アジア地域は引き続き中国を中心に増加。欧州は大幅に増加し、北米も増加。欧州 (前年同期比 9.8%増) は、引き続き増加。窯業・土石の著しい増加が寄与。輸送機械は引き続き堅調に増加。北米(同 3.4%増)は、3 期連続増加。輸送機械及び化学は引き続き増加し、電気機械及び一般機械が増加に転じた。アジア地域(同 3.0%増)は、伸び率は鈍化しているものの、引き続き増加。中国(同 4.7%増)は、伸び率は鈍化し、5 期連続で 1 桁台の増加。輸送機械は引き続き大幅に増加する一方、電気機械は横ばいとなった。ASEAN4(同 0.0%増)は、2 期連続ほぼ横ばい。輸送機械は引き続き増加したが、電気機械は4 期連続の減少。NIEs3(同 ▲4.7%減)は、4 期連続減少。輸送機械は6 期連続減少し、電気機械は3 期連続減少。

3 表 従業者数のD I 及び実績 (地域・主要業種別)

	DI					実績	
	前期調査			前期比		前期	
	①現状判断 (19.7-9)	②現状判断 (19.10-12)	③先行き (20.1-3)	現状判断 (②-①)	先行き (③-②)	(19.4-6)	(19.7-9)
計 (地域・業種)	9.8 →	8.3 →	8.9	(▲1.5)	0.6	3.5	3.6
北米	8.0 →	2.8 →	3.5	(▲5.2)	0.7	0.5	3.4
アジア	12.3 →	10.9 →	11.7	(▲1.4)	0.8	3.5	3.0
ASEAN4	8.3 →	5.8 →	8.1	(▲2.5)	2.3	0.1	0.0
NIEs3	1.3 →	3.0 →	3.2	(1.7)	0.2	▲1.5	▲4.7
中国 (香港含む)	17.8 →	15.8 →	15.7	(▲2.0)	▲0.1	5.5	4.7
欧州	▲1.0 →	▲1.8 →	▲0.3	(▲0.8)	1.5	9.1	9.8

	DI					実績	
	前期調査			前期比		前期	
	①現状判断 (19.7-9)	②現状判断 (19.10-12)	③先行き (20.1-3)	現状判断 (②-①)	先行き (③-②)	(19.4-6)	(19.7-9)
輸送機械	14.0 →	12.0 →	13.5	(▲2.0)	1.5	10.0	10.9
電気機械	6.0 →	9.5 →	5.6	(3.5)	▲3.9	▲2.4	▲2.2
一般機械	13.5 →	10.6 →	8.9	(▲2.9)	▲1.7	3.9	3.7
化学	8.2 →	8.2 →	8.0	(0.0)	▲0.2	1.8	▲1.9
鉄鋼	18.9 →	15.3 →	25.4	(▲3.6)	10.1	2.1	▲7.2

<参考> 海外経済

世界の景気は回復している。アメリカでは、住宅建設の減少等により、引き続き景気回復は緩やかなものとなっている。先行きについては、金融資本市場の変動等により不透明感が見られる。アジアでは中国等で景気は拡大が続いている。中国では、景気は拡大が続いている。固定資産投資は高い伸びが続いている。台湾、シンガポール、マレーシアでは、景気は拡大している。韓国では、景気は緩やかに拡大している。タイでは、景気は持ち直しの動きがみられる。ユーロ圏及び英国では、景気は回復している。(月例経済報告(平成19年12月)より)

輸送機械の動向 - 北米市場縮小のなか、日系製造企業は底堅い動き -

■ 今期調査における輸送機械の売上高実績（平成19年7-9月期）は、前年同期比 13.1%増と4期連続2桁台の増加と堅調な伸びとなった。地域別にみると、アジア地域では、同 28.7%増（ASEAN4は 同 16.9%増、NIEs3は 同 18.0%増、中国は 同 48.5%増、その他アジアでは 同 33.5%増）欧州では 同 18.3%増と大幅な増加に対し、北米は、同 2.0%増の低い伸び率にとどまった。

また、輸送機械の売上高シェアをみると、平成16年7-9月期には、北米が54.4%と5割強を占めていたが、年々そのシェアは低下し、今期においては、40.3%まで縮小した。他方、アジア地域のシェアは、平成16年7-9月期の19.8%から、今期は 32.3%と大幅に拡大した。欧州及びその他地域のシェアはさほど変化はない。このことから、今期の輸送機械の売上高の伸び率 13.1%増は、北米を除く地域の大幅な増加が寄与しているのがわかる。

（図1）

■ そこで、北米の輸送機械の動向をみる。

原油価格高騰の動きが顕著になった平成17年4-6月期以降、北米輸送機械の伸び率は徐々に鈍化し、昨年7-9月期において調査以来初めて減少した後、ここ1年は 1~2%の伸び率で推移している。北米の輸送機械の低迷には、原油高が大きく影響していることがわかる。

（図2）

次に、北米の自動車販売台数をみると、JAMA※の統計による、日系車を除いた北米の販売台数の伸び率は、平成18年4-6月期以降減少を続けているが、日系車の販売台数は、逆に増加を続けており、日系車の健闘が伺える。

（図3）

北米の輸送機械は、94%が自国内向けに販売がされているが、ガソリン価格高騰の影響を受け、北米市場では大型車が敬遠され、中小型車を中心に、低燃費仕様車へ需要がシフトした。

日系車販売の内訳をみると、現地製造日系車の販売台数の伸び率は、本調査における北米輸送機械の売上高伸び率とほぼ同じ動きを示している。北米輸送機械が初の減少となった昨年7-9月期には、現地製造日系車の販売台数も減少したが、逆に輸入された日系製造車の販売台数が急増している。

つまり、ガソリン価格高騰による市場ニーズのシフトに、現地製造車の供給が追いつかず、日本からの輸入によって急増を遂げたことを示している。しかし、その後は、輸入車の販売台数の伸び率は大幅に鈍化し、現地製造車の販売が増加している。

（図4）

これは、日系製造企業が、低燃費仕様車等を中心とした、中小型車の生産設備を増強し、現地生産を拡大したためと考えられる。輸送機械の設備投資額は、輸送機械の売上高が減少に転じた昨年7-9月期には、前年の同期と比べ、約 1.5倍の大規模な設備投資が行われ、今期はさらにそれを上回った。

（図5）

今期の見通しについて、輸送機械の売上高DIでみると、今期の現状判断DI（平成19年10-12期）は 14.8%ポイントで、先行きDI（平成20年1-3月期）は 17.1%ポイントと、プラス幅を拡大させている。しかし、前年同期調査（平成18年7-9月期）の現状判断DI（18年10-12月期）の 21.1%ポイント、先行きDI（平成19年1-3月期）の 30.0%ポイントと比較すると、同じ原油価格高騰の背景下にあって、今期の見通しは、より慎重な水準となっている。

北米の自動車市場縮小のなかで、北米の日系企業製造車の売上上げは、低燃費仕様車を中心に底堅い動きをみせているが、引き続き原油価格高騰及びサブプライム問題による信用不安下、今後の動向が注目される。

※ JAMA：（社）日本自動車工業会

図1 輸送機械の売上高シェアの推移

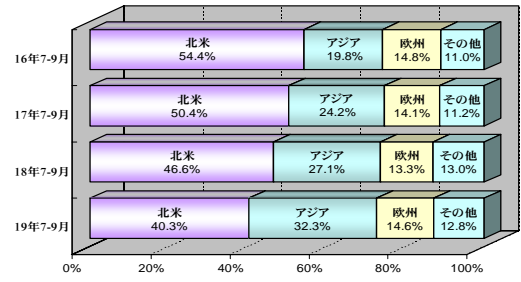


図2 北米の輸送機械売上高伸び率と原油価格の推移

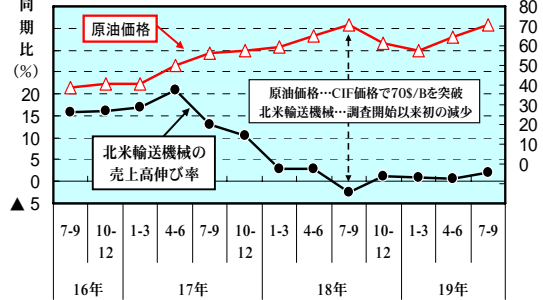


図3 北米の自動車販売台数の推移（乗用車）

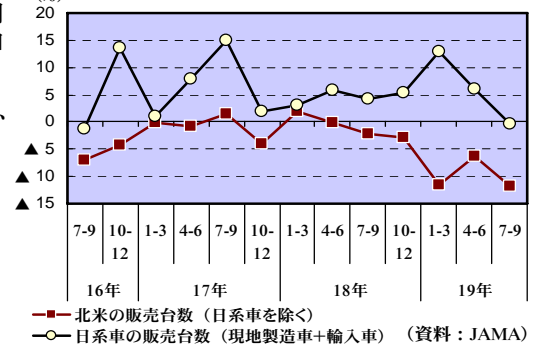


図4 北米の自動車販売台数の推移（乗用車）

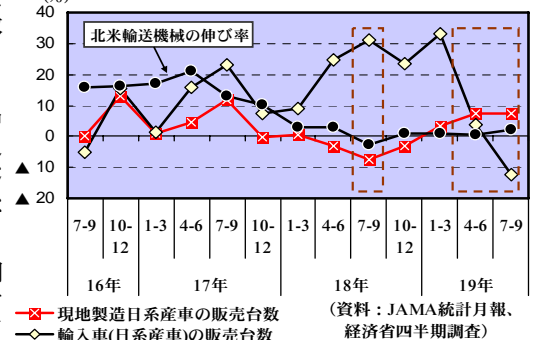


図5 北米輸送機械の設備投資額推移

